

平成29年度	後期長期研修	校種・領域	中学校第1学年 国語
めざす児童生徒像	物語に没入し、物語の世界をからだで感じ、着目した描写や関係性に対して、自分なりの意味や解釈を考えたものを、自分自身のことばで表現する生徒。		
テーマ	自己ごととして文学を読む力を育てる授業の工夫		
サブテーマ	文学作品の読みの授業における演劇的な活動を通して(第1学年)		
概要	<p>【課題】文学的な文章の指導で、生徒の解釈を交流・深化させておらず豊かな読みになっていない。</p> <p>【手立て】○ 演劇的手法を用いた活動を学習過程に位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラルスピーカー ・ロールプレイ ・ホットシーティング ・朗読劇の創作・発表・鑑賞 <p>○ 読みを貫く自分の問い合わせを立てる</p> <p>○ 個での学習を中心とした活動</p> <p>【目標】自分の読みの解釈を、自分自身のことばで表現する。 =自己ごととして読む力をもつ。</p>		
キーワード	自己ごと、演劇的活動、問い合わせを立てる、個での学習、参加感		
イメージ図			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 演劇的活動を学習過程に取り入れることによって、生徒は学習への参加感を高めるとともに、多様な意見を交流しあいながら解釈を深め、納得感をもって理解することができた。 ▶ 読み取った内容をもとに、身体を使って活動することで、自分の言葉で解釈を書くことができた。 ▶ 自分の問い合わせを持って学習に取り組むことで、生徒自身が読みの深まりを実感することができた。 ▶ 授業で深く取り上げなかった作中人物の人間関係や心情などについても、自分なりに考えを深めようとする姿が見られた。 		